第 3 回 湯西川ダムモニタリング委員会での指摘事項等と対応案

湯西川ダムの試験湛水中のモニタリング調査結果の報告、及び試験湛水前と試験湛水中の調査結果の比較について、審議を行った。

委員会の審議に際し、各委員より出された主な意見は、下記のとおり。

項目	指摘事項等	対応案
水質	・底層の DO が下がると土壌中のマンガン、鉄、亜鉛が溶け出す可能性がある。湯西川ダムサイト地点及びダム放流口地点でこれら項目を計測すること。 ・また、湯西川ダム放流口地点のみでは五十里ダムへの影響が分かりにくいので、「五十里ダム・湯西川合流地点」で一般項目及び生活項目を追加して計測すること。（浅枝委員）	・今後、追加で計測を行う。
生物（動物・植物・生態系）	・クマタカの保全対策の論文作成にあたっては、本委員会のメンバー、並びに分科会のメンバーにも内容の確認を依頼すること。（由井委員）	・本委員会のメンバー及び分科会メンバーへ確認後公表する。
	・ベルトトランセクトの植生調査地点では土壌の残り方で、植物の生育状況も変わってくるだろう。傾斜が急なほど植物への影響は大きくなる（谷本委員）	・H25 夏季以降のベルトトランセクト植生調査の際に土壌の状況の記録を行う予定であり、調査及び考察の参考にさせていただく。
	・イノシシの分布状況が気になるので、モニタリング調査においていつ頃からイノシシが確認されているか教えて欲しい。（小金澤委員）	・過年度の調査結果等を確認して報告する。
	・H25 年度に予定しているフクロウ調査では IC レコーダーを用いた鳴き声確認を行うと良い。（由井委員）	・調査手法に取り入れることとする。
	・水位変動のため水面近くに樹木がないダム湖には、ヤマセミは湖岸部に止まれる樹木等が無いため、あまり利用しないかもしれない。（由井委員）	・今後も調査の際に留意して観察する。
	・上流端の植生調査でアメリカセンダングサ等が衰退しているが、もともと先駆性の種であり、撹乱の影響で一時的に見られなくなるのは普通のことである。（谷本委員）	・とりまとめの参考とさせていただく。
	・ヒョウタンボク類の遺伝子保存のため、関係研究機関への再移植は評価できる。今後も場合によってはこのような地域外保存も一つの手段として考えられる。 ・植物調査の際、日当たり等の情報も記録しておくとよい。（谷本委員）	・今後も必要が生じたときは委員に相談のうえ、地域外保存も検討することとする。
	・蘚苔類は落葉が溜まり易い箇所では光が不足して消失することがある（谷本委員）	・移植は落葉が溜まりにくい箇所を選定しているが、今後も落葉が溜まっていないか、調査時に留意する。
地形地質	・試験湛水では、いったん常満まで水位を上げた後に、最低水位まで下げたので、この冬に温風穴の吹き出し状況が変化する可能性があるので、チェックしておくこと。（酒井委員）	・温風穴についても継続観測しており、H25 春季にデータを回収して確認を行う予定である。